

私たちの人生に良い話

私たちの人生に良い話  
直感と事実  
行動の基盤となる  
二つの要素の使い分け

## 私たちの人生に良い話

### 直感と事実

#### 行動の基盤となる二つの要素の使い分け

今回は直感と事実について書きたいと思う。

まず初めに、人の行動を直感に基づく行動と事実に基づく行動に分ける。

人は、放っておけば直感を頼りに行動する生き物である。

例えば“あの子は僕のことを好きなのではないだろうか？”と浮かれて、浮足立ったまま告白し見事にフラれる。

しかし、こういう失敗の経験を積み、冷静になり、こういうふうには直感では思っても違うのではないかと自分の直感を疑う。

すると、本当に正しいことを知るために、“事実”を材料にする。

例えば、突然Aさんがわざわざ自分の元へやって来て趣味は何だと聞いてきたとする。

本当に興味がないのであれば、そんな質問はしてこないもので、少しは自分に興味を抱いてもらっていると判断する。

では、その興味を大きくするにはどういった方法があるだろう？

・・・という具合だ。

これはごく一部分の小さな例だが、人の行動が直感に基づく行動と事実に基づく行動の2種類ある代表例だ。

事実を元に行動していった方がより正確であり懸命であるという考え方がある。

一方で世の中には“直感は当たる”という意見もある。

理論的に考えたことより、感覚的なものは意外と正しかったりすることからきている意見だ。

よって、直感を頼りに行動した方が良い場合もある。

どちらかの行動が間違っていてどちらかの行動が正しいのであれば明快なのだが、どちらが正しいこともある、というのが事実だ。

では、この二つをどのように使い分ければいいのか。

著者はこの二つの行動の使い分けに、これからの“時代背景”が大きく影響してくると思う。

まず、これからの時代で“感覚的”なものだけを頼りに生きていくことは限りなく難しいのではないかと思う。

コンピュータが普及し、結論や合理性を追求する時代で、やはり大多数の人間が感覚的なものよりも事実を頼りに行動していく。

**体験版はここまでです。**